



平成22年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成22年8月11日

上場会社名 株式会社CSSホールディングス 上場取引所 JQ
 コード番号 2304 URL http://www.css-holdings.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 松木 崇 (TEL) 03(3264)1132
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画室長 (氏名) 吉原 伸幸 配当支払開始予定日 -
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月13日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成22年9月期第3四半期の連結業績（平成21年10月1日～平成22年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
22年9月期第3四半期	9,197	△20.1	123	△45.6	138	△38.4	69	△50.1
21年9月期第3四半期	11,517	-	226	-	224	-	139	-

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
22年9月期第3四半期	1,369	17	1,356	86
21年9月期第3四半期	2,740	77	2,716	15

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円	銭	
22年9月期第3四半期	6,579	1,625	1,625	1,625	24.7	31,840	29	
21年9月期	6,707	1,594	1,594	1,594	23.8	31,235	16	

(参考) 自己資本 22年9月期第3四半期 1,625百万円 21年9月期 1,594百万円

2. 配当の状況

	年間配当金							
	第1四半期末		第2四半期末		第3四半期末	期末	合計	
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭
21年9月期	-		0	00	-		750	00
22年9月期	-		0	00	-			
22年9月期(予想)							750	00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無：無

3. 平成22年9月期の連結業績予想（平成21年10月1日～平成22年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	13,162	△10.5	81	△56.7	94	△45.6	61	△57.8	1,194	95

(注) 当四半期における業績予想の修正有無：無

4. その他（詳細は、[添付資料] P. 4「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 : 無

新規 ー社 除外 ー社

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 : 有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 : 無

② ①以外の変更 : 有

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

22年9月期3Q	52,856株	21年9月期	52,856株
22年9月期3Q	1,808株	21年9月期	1,808株
22年9月期3Q	51,048株	21年9月期3Q	51,078株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想については、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確定な要素を含んでおります。そのため、事業環境をはじめとする様々な要因の変化により、実際の業績はこれと異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	4
(1) 重要な子会社の異動の概要	4
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	4
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 継続企業の前提に関する注記	10
(5) セグメント情報	10
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
(7) その他の注記情報	11

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、景気に持ち直しの動きが見られるものの、海外景気の下振れリスクや雇用環境の悪化懸念は依然として残っており、設備投資需要や個人消費は本格的な回復には至らず、先行き不透明な状況のまま推移致しました。当社グループの主要顧客であるホテル業界、商業施設業界においても、収益の改善には未だなお時間を要する状況にあり、当社グループを取り巻く経済環境は厳しい状況が続きました。

このような中、当社グループは経営方針である「現場主義の徹底による人材の育成」と「コスト削減による利益体質の強化」に基づき、引き続き、顧客ニーズを的確に捉えたパートナー企業として、顧客の利益を最大限に引き出せる事業運営に取り組んでまいりました。この結果、当第3四半期累計期間において、連結売上総利益率は前年比15.9%から16.8%へ改善するとともに、連結販売費及び一般管理費は計画に比べ85百万円の減少となりました。

しかしながら、当第3四半期累計期間は売上高の減少の影響が大きく、連結売上高は9,197百万円（前年同期比20.1%減）、連結営業利益123百万円（前年同期比45.6%減）、連結経常利益は138百万円（前年同期比38.4%減）、連結四半期純利益は69百万円（前年同期比50.1%減）となりました。

当第3四半期連結累計期間のセグメント別の業績の概況は次のとおりです。

① スチュワード事業 株式会社セントラルサービスシステム（CSS）

当事業は、ホテル・レストランにおける食器洗浄を中心としたスチュワード管理を全国展開している当社グループの中核事業であります。

当第3四半期累計期間においては、顧客とのさらなる連携強化を目的とした、リーディングカンパニーとしての事業所責任者のスキルアップを推し進め、現場主導のもと、食器洗浄業務に付帯する各種業務の提案を積極的に行い、事業所一件あたりの売上高の増加につなげてまいりました。加えて、将来の事業拡大に向けたホテル内清掃などのスチュワード周辺業務の研修を開始致しました。

しかしながら、ホテル業界は法人需要や個人消費の回復の遅れから厳しい市場環境が続いており、当事業も売上高の減少を余儀なくされ、売上高は3,868百万円（前年同期比28.2%減）、営業利益126百万円（前年同期比33.8%減）となりました。

② 総合給食事業 株式会社センダン（SDN）

当事業は、従業員食堂運営を中心にレストラン運営などフードサービスに係る総合給食事業を全国展開しております。

当第3四半期累計期間においては、飲食業界におけるアウトソーシングのニーズの高まりを背景に採算性を重視した営業活動を推進し、新たに複数の学生食堂およびホテル内レストランの業務受託に向けた最終打合せを開始致しました。加えて、全事業所を対象として導入した食材統一調達システムの活用を引き続き推し進めました。

この結果、売上高は1,797百万円（前年同期比2.3%減）、営業利益60百万円（前年同期比84百万円増）となり、利益面で連結業績に大きく貢献致しました。

③ 映像・音響機器等販売施工事業 東洋メディアリンクス株式会社（TML）

当事業は、日本のBGMのパイオニア企業としての音楽関連事業と、セキュリティシステム、映像・音響システムの設計施工事業を幅広い顧客層向けに展開している当社グループの中核事業であります。

当第3四半期累計期間においては、ハード部門、ソフト部門、保守部門の3部門の融合を一層図るため、組織の見直しと本部の集約により部門間の連携を強化するとともに、新たに、ソフト部門における関西地区の営業拠点の拡大を推し進めました。また、金融機関の防犯設備および大型展示場の音響設備等の新規受注を獲得致しました。

しかしながら、主要顧客である大型商業施設などの改修計画の規模縮小や延期による機器設備売上の減少、商業施設の出店計画の縮小などを背景とした音楽制作売上の減少により、結果、売上高は2,169百万円（前年同期比22.0%減）、営業損失13百万円（前年同期比63百万円減）となりました。

④ 音響・放送機器等制作・販売事業 音響特機株式会社（OTK）

当事業は、大型スピーカーやアンプ等のプロフェッショナル向け音響機器の輸入および販売事業を展開しております。

当第3四半期累計期間においては、国内のプロオーディオ市場の収縮傾向が依然として続く中、前期に国内総代理店権を獲得した海外製品の販売を促進するとともに、全国の有力得意先との取引拡大に努めました。

この結果、売上高は1,389百万円（前年同期比1.8%増）、営業利益29百万円（前年同期比0.1%減）となりました。

⑤総務・人事・経理管理事業 株式会社CSSビジネスサポート（CBS）

当事業は、総務・人事・経理業務をグループ会社より受託しております。

当第3四半期累計期間においては、CSS、SDNのパートナー（パート・アルバイト）約4,000名の労務管理、給与計算業務をはじめ一層の業務効率化に努めた結果、販売費及び一般管理費は前年同期に比べ84百万円減少し、利益面で連結業績に貢献致しました。

（2）連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期における総資産は6,579百万円で、前連結会計年度末に対し128百万円の減少となりました。その主な要因は売掛金等の減少により、流動資産が95百万円減少したことによります。

一方、負債は買掛金、短期借入金の減少等により、158百万円の減少となりました。

なお、純資産は1,625百万円となり、自己資本比率は24.7%で前連結会計年度末に対し0.9ポイント上昇しています。

（キャッシュ・フローの状況）

当第3四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」）は、営業活動により得られた資金は386百万円、投資活動により得られた資金は115百万円、財務活動により使用した資金は242百万円となりました。前事業年度末より259百万円増加し、2,661百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュフローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動によるキャッシュフローは386百万円の獲得（前年同期は12百万円の支出）となりました。これは主に、売上債権の減少130百万円、仕入債務の減少28百万円、未収還付消費税の減少175百万円、法人税の還付額111百万円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動によるキャッシュフローは115百万円の獲得（前年同期121百万円の獲得）となりました。これは主に、定期預金の預入273百万円に対し定期預金の払戻393百万円、投資有価証券の売却による収入10百万円、差入保証金の解約による収入8百万円等によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動によるキャッシュ・フローは242百万円の支出（前年同期は253百万円の獲得）となりました。これは主に、長期借入金の増加による収入490百万円、短期借入金の減少198百万円、長期借入金の返済による支出374百万円、社債の償還による支出217百万円等によるものであります。

（3）連結業績予想に関する定性的情報

当社グループは、2008年秋以降の米国の金融不安に端を発した経済環境の悪化を受け、いち早く、「現場主義の徹底による人材の育成」と「コスト削減による利益体質の強化」を経営方針として打ち出してまいりました。今後、当社グループは売上拡大による成長路線に方向を転じるべく、創業30周年に向けた新たな事業計画の策定に入っております。

一方、国内の設備投資需要や個人消費の著しい回復が見られない中、当社主要顧客の市場環境は未だ回復したとは言えず、当社グループを取り巻く経済環境は引き続き厳しい状況が続いております。よって、当社グループの今後の業績については不透明感を拭えないことから、現時点での通期業績予想の修正は致しておりません。（なお、業績予想については、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、不確定な要素を含んでおります。そのため、事業環境をはじめとする様々な要因の変化により、実際の業績はこれと異なる可能性があります。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

当社連結子会社でありました株式会社セントラルマネジメントシステムは、平成21年8月31日開催の株主総会における解散決議に従い、平成21年12月8日付にて清算終了となっております。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成22年6月30日)
一般債権の貸倒見積額の算定方法	当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見込高を算定しております。
棚卸資産の評価方法	当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。
固定資産の減価償却費の算定方法	定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成22年6月30日)
1. 連結の範囲に関する事項の変更	<p>(1) 連結の範囲の変更 株式会社セントラルマネジメントシステムは、平成21年12月8日に清算終了したため、当第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しておりますが、同日までの損益計算書については連結しております。</p> <p>(2) 変更後の連結子会社の数 5社</p>
2. 会計処理の表示方法の変更	<p>(四半期連結キャッシュフロー計算書)</p> <p>前第3四半期連結累計期間において「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示しておりました「未収消費税等の増減額」は重要性が増加したため、当第3四半期連結累計期間より区分掲記することとしました。なお、前第3四半期連結累計期間の「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含まれる未収消費税等の減少額は12,711千円であります。</p> <p>前第3四半期連結累計期間において「財務活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めて表示しておりました「配当金の支払額」は重要性が増加したため、当第3四半期連結累計期間より区分掲記することとしました。なお、前第3四半期連結累計期間の「財務活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含まれる「配当金の支払額」は397千円であります。</p>

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,085,109	2,945,521
受取手形及び売掛金	1,289,615	1,420,295
商品及び製品	239,087	233,874
仕掛品	164,253	130,150
原材料及び貯蔵品	13,608	14,220
その他	268,266	410,037
貸倒引当金	△7,374	△5,569
流動資産合計	5,052,566	5,148,529
固定資産		
有形固定資産	※1 501,876	※1 507,172
無形固定資産	27,117	22,551
投資その他の資産		
投資有価証券	355,911	383,683
その他	641,968	645,514
投資その他の資産合計	997,880	1,029,197
固定資産合計	1,526,874	1,558,922
資産合計	6,579,441	6,707,451
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	508,692	537,480
短期借入金	1,390,000	1,588,668
1年内返済予定の長期借入金	487,850	434,723
1年内償還予定の社債	254,000	294,000
未払金	524,458	551,208
賞与引当金	135,781	134,055
未払法人税等	33,232	11,071
その他	185,923	107,313
流動負債合計	3,519,938	3,658,519
固定負債		
社債	524,000	601,000
長期借入金	644,767	582,732
退職給付引当金	144,715	133,444
役員退職慰労引当金	35,661	28,720
その他	84,975	108,542
固定負債合計	1,434,119	1,454,439
負債合計	4,954,058	5,112,959

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	393,562	393,562
資本剰余金	277,699	277,699
利益剰余金	1,060,116	1,028,512
自己株式	△87,056	△87,056
株主資本合計	1,644,321	1,612,717
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△18,938	△18,225
評価・換算差額等合計	△18,938	△18,225
純資産合計	1,625,383	1,594,492
負債純資産合計	6,579,441	6,707,451

(2) 四半期連結損益計算書
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年10月1日 至平成21年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年10月1日 至平成22年6月30日)
売上高	11,517,118	9,197,102
売上原価	9,685,257	7,655,667
売上総利益	1,831,861	1,541,434
販売費及び一般管理費	※ 1,605,723	※ 1,418,299
営業利益	226,138	123,135
営業外収益		
受取利息	2,534	2,200
受取配当金	6,889	5,644
負ののれん償却額	21,701	21,701
持分法による投資利益	3,063	2,117
その他	51,138	47,192
営業外収益合計	85,327	78,857
営業外費用		
支払利息	50,958	47,684
投資事業有限責任組合等出資金損失	—	5,085
その他	36,385	11,117
営業外費用合計	87,343	63,887
経常利益	224,122	138,105
特別利益		
投資有価証券売却益	56,880	—
貸倒引当金戻入額	2,362	—
特別利益合計	59,242	—
特別損失		
投資有価証券売却損	—	310
たな卸資産評価損	16,649	—
投資有価証券評価損	17,040	14,495
役員退職慰労金	44,625	—
過年度退職給付費用	14,575	2,732
事務所移転費用	—	2,665
特別損失合計	92,890	20,203
税金等調整前四半期純利益	190,474	117,902
法人税、住民税及び事業税	50,481	49,644
法人税等調整額	—	△1,636
法人税等合計	50,481	48,008
四半期純利益	139,993	69,893

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成21年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成22年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	190,474	117,902
減価償却費	19,257	16,385
負ののれん償却額	△21,701	△21,701
投資有価証券評価損	17,040	14,495
たな卸資産評価損	18,155	—
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	22,316	11,270
投資有価証券売却損益 (△は益)	△56,880	310
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△3,925	1,726
事業整理損失引当金の増減額 (△は減少)	△167,430	—
前払費用の増減額 (△は増加)	9,394	△13,121
受取利息及び受取配当金	△9,424	△7,845
支払利息	50,958	47,684
売上債権の増減額 (△は増加)	483,772	130,679
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△63,428	△38,704
仕入債務の増減額 (△は減少)	△80,127	△28,788
未払金の増減額 (△は減少)	△250,299	△26,749
未収消費税等の増減額 (△は増加)	—	175,277
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△195,947	△3,550
その他	103,249	△29,630
小計	65,452	345,640
利息及び配当金の受取額	9,394	7,379
利息の支払額	△45,409	△46,553
訴訟供託金の返還額	19,000	—
事務所移転費用の支出額	—	△2,665
法人税等の支払額	△231,888	△29,024
法人税等の還付額	170,528	111,237
営業活動によるキャッシュ・フロー	△12,921	386,014
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	△645,500	△273,500
定期預金の払戻による収入	583,500	393,500
投資有価証券の取得による支出	△7,499	△3,454
投資有価証券の売却による収入	90,000	10,555
差入保証金の回収による収入	105,618	8,746
その他	△4,714	△20,093
投資活動によるキャッシュ・フロー	121,404	115,755

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成21年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成22年6月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の増減額(△は減少)	264,267	△198,668
長期借入れによる収入	350,000	490,000
長期借入金の返済による支出	△513,163	△374,838
社債の発行による収入	341,842	95,945
社債の償還による支出	△187,000	△217,000
配当金の支払額	—	△37,620
その他	△2,796	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	253,150	△242,181
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	361,633	259,588
現金及び現金同等物の期首残高	2,482,542	2,402,021
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 2,844,175	※ 2,661,609

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第3四半期連結累計期間(自 平成20年10月1日 至 平成21年6月30日)

	スチュワード事業 (千円)	総合給食 事業 (千円)	料飲管理 事業 (千円)	音響・放 送機器等 制作・販 売事業 (千円)	映像・音 響機器等 販売施工 事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	5,376,194	1,835,691	198,978	1,332,271	2,773,983	11,517,118	—	11,517,118
(2) セグメント間の内部売上高または振替高	8,000	5,155	—	32,039	7,229	52,424	(52,424)	—
計	5,384,194	1,840,847	198,978	1,364,310	2,781,212	11,569,542	(52,424)	11,517,118
営業利益(又は営業損失)	190,468	△23,077	△16,816	29,702	49,558	229,835	(3,697)	226,138

当第3四半期連結累計期間(自 平成21年10月1日 至 平成22年6月30日)

	スチュワード事業 (千円)	総合給食 事業 (千円)	料飲管理 事業 (千円)	音響・放 送機器等 制作・販 売事業 (千円)	映像・音 響機器等 販売施工 事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高								
(1) 外部顧客に対する売上高	3,868,340	1,797,716	—	1,362,784	2,168,260	9,197,102	—	9,197,102
(2) セグメント間の内部売上高または振替高	—	—	—	26,236	1,678	27,915	(27,915)	—
計	3,868,340	1,797,716	—	1,389,021	2,169,939	9,225,017	(27,915)	9,197,102
営業利益(又は営業損失)	126,154	60,930	△4	29,663	△13,743	203,001	(79,865)	123,135

[所在地別セグメント情報]

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

[海外売上高]

海外売上高がないため、該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記
該当事項はありません。

(7) その他の注記情報

①追加情報

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成22年6月30日)
1. 退職給付引当金	当社並びに連結子会社株CSSビジネスサポートにおいて、従業員の退職給付に備えるため、当第1四半期連結会計期間より、退職給付債務の見込額に基づき計上しております。なお、過去勤務分については特別損失として過年度退職給付費用2,732千円を計上の上、当第3四半期連結累計期間として398千円を販売費及び一般管理費に計上しております。

②四半期連結貸借対照表の欄外注記

当第3四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末 (平成21年9月30日)
※1. 有形固定資産の減価償却累計額は251,171千円であります。	※1. 有形固定資産の減価償却累計額は250,623千円であります。

③四半期連結損益計算書の欄外注記

前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成21年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成22年6月30日)																																
※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。	※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。																																
<table border="0"> <tr><td>役員報酬</td><td>194,399千円</td></tr> <tr><td>給料手当等</td><td>597,607</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td>58,245</td></tr> <tr><td>福利厚生費</td><td>128,154</td></tr> <tr><td>支払手数料</td><td>163,427</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td>22,222</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金繰入額</td><td>2,536</td></tr> <tr><td>地代家賃</td><td>91,340</td></tr> </table>	役員報酬	194,399千円	給料手当等	597,607	賞与引当金繰入額	58,245	福利厚生費	128,154	支払手数料	163,427	退職給付費用	22,222	役員退職慰労引当金繰入額	2,536	地代家賃	91,340	<table border="0"> <tr><td>役員報酬</td><td>177,655千円</td></tr> <tr><td>給料手当等</td><td>517,446</td></tr> <tr><td>賞与引当金繰入額</td><td>43,313</td></tr> <tr><td>福利厚生費</td><td>104,854</td></tr> <tr><td>支払手数料</td><td>114,945</td></tr> <tr><td>退職給付費用</td><td>53,757</td></tr> <tr><td>役員退職慰労引当金繰入額</td><td>7,491</td></tr> <tr><td>地代家賃</td><td>90,987</td></tr> </table>	役員報酬	177,655千円	給料手当等	517,446	賞与引当金繰入額	43,313	福利厚生費	104,854	支払手数料	114,945	退職給付費用	53,757	役員退職慰労引当金繰入額	7,491	地代家賃	90,987
役員報酬	194,399千円																																
給料手当等	597,607																																
賞与引当金繰入額	58,245																																
福利厚生費	128,154																																
支払手数料	163,427																																
退職給付費用	22,222																																
役員退職慰労引当金繰入額	2,536																																
地代家賃	91,340																																
役員報酬	177,655千円																																
給料手当等	517,446																																
賞与引当金繰入額	43,313																																
福利厚生費	104,854																																
支払手数料	114,945																																
退職給付費用	53,757																																
役員退職慰労引当金繰入額	7,491																																
地代家賃	90,987																																

④四半期連結キャッシュフロー計算書の欄外注記

前第3四半期連結累計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成21年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成22年6月30日)												
※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年6月30日現在) (千円)	※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年6月30日現在) (千円)												
<table border="0"> <tr><td>現金及び預金勘定</td><td>3,419,675</td></tr> <tr><td>預入期間が3か月を超える定期預金</td><td>△575,500</td></tr> <tr><td>現金及び現金同等物</td><td><u>2,844,175</u></td></tr> </table>	現金及び預金勘定	3,419,675	預入期間が3か月を超える定期預金	△575,500	現金及び現金同等物	<u>2,844,175</u>	<table border="0"> <tr><td>現金及び預金勘定</td><td>3,085,109</td></tr> <tr><td>預入期間が3か月を超える定期預金</td><td>△423,500</td></tr> <tr><td>現金及び現金同等物</td><td><u>2,661,609</u></td></tr> </table>	現金及び預金勘定	3,085,109	預入期間が3か月を超える定期預金	△423,500	現金及び現金同等物	<u>2,661,609</u>
現金及び預金勘定	3,419,675												
預入期間が3か月を超える定期預金	△575,500												
現金及び現金同等物	<u>2,844,175</u>												
現金及び預金勘定	3,085,109												
預入期間が3か月を超える定期預金	△423,500												
現金及び現金同等物	<u>2,661,609</u>												